

項目	内容
名称	クコ、ゴジベリー [英]Goji、Chinese wolfberry、Wolfberry、Duke of Argyll's tea-tree、Chinese box thorn、matrimony vine. [学名]Lycium chinense Mill.、Lycium barbarum Linne
概要	クコは、本州～沖縄、朝鮮半島、中国、台湾に分布するナス科の多年生木本。高さ1～2 mに生長する。若芽をお浸しや和え物、天ぷらなど、果実をドライフルーツなどで食してきた。なお、日本薬局方では果実が生薬の枸杞子(クコシ)、根皮が地骨皮(ジコッピ)の原料とされ、枸杞子は虚勞、心病に、地骨皮は解熱に使用されているが、食品のクコと混同しないよう、注意が必要である。
法規・制度	<p>■食薬区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジコッピ(クコ)根皮：「専ら医薬品として使用される成分本質(原材料)」に該当する。 ・クコ(クコシ/クコヨウ)果実、葉：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質(原材料)」に該当する。 <p>■日本薬局方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クコシ、ジコッピが収載されている。 <p>■食品添加物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天然香料基原物質リスト クコが収載されている。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	
分析法	<ul style="list-style-type: none"> ・<i>L. chinense</i>のリシウモシド、ルチン、クロロゲン酸、ケルセチン-3-O-ソホロシド、ケンフェロール-3-O-ソホロシドをUV検出器を装着したHPLCで分析した報告がある(101)(1998137902)。 ・<i>L. chinense</i>の揮発性中性成分として、カロテノイド由来と考えられる化合物(ジヒドロアクチニジオリド、サフラナル、β-イオノン、メガスティグマトリエノン、3-ヒドロキシ-β-イオノン)14種を検出したという報告がある(1984171674)。

有効性

循環器・呼吸器	メタ分析 ・2017年3月までを対象に4つのデータベースで検索できた無作為化比較試験7報について検討したメタ分析において、クコ (L. barbarum、果実4報、多糖2報、部位不明1報) の摂取は空腹時血糖 (4報) の低下と関連が認められたが試験によるばらつきが大きく、体重 (5報)、血圧 (拡張期、収縮期 (各6報))、血中脂質 (TC、TG (各3報)) との関連は認められなかった (PMID:28401234)。
消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
ヒトでの評価 免疫・がん・炎症	RCT ・高齢者150名 (試験群75名、平均67±2歳、中国) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、クコ (L. barbarum) 果実530 mg/g含有粉末13.7 g/日を90日間摂取させ、30日目にインフルエンザワクチンを接種させたところ、総IgG、インフルエンザ特異的IgGの増加、ワクチン接種後の抗体の陽性化率上昇が認められた。一方、総IgM、特異的IgM、遅延型皮膚反応、炎症マーカー (CRP、オロソムコイド、IL-6、sTNR-R1) に影響は認められなかった (PMID:22352435)。また、網膜の黄斑色素減少抑制、総抗酸化能上昇が認められたが、軟性ドレーゼン数に影響は認められなかった (PMID:21169874)。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (18) 和漢薬百科図鑑I/II保育社 難波恒雄 著
(20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン
(22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添2、別添3、一部改正について)
(101) *Natural Med.* 1995;49(2):133-6.
(92) 現代中薬薬理学 天津科学技術出版社
[\(PMID:11675844\) *Ann Pharmacother.* 2001 Oct;35\(10\):1199-201.](#)
(24) 漢方薬理学 南山堂 高木敬次郎ら 監修
(1998137902) *Natural Med.* 1997; 51(5):387-91
(1984171674) *Agric Biol Chem.* 1983; 47(10):2397-9.
[\(PMID:18281140\) *Food Chem Toxicol.* 2008 May;46\(5\):1860-2.](#)
[\(PMID:21621492\) *Dig Liver Dis.* 2011 Sep;43\(9\):749.](#)
[\(PMID:22392461\) *Pharmacotherapy.* 2012 Mar;32\(3\):e50-3.](#)
[\(PMID:22312943\) *J Investig Allergol Clin Immunol.* 2011;21\(7\):567-70.](#)
[\(PMID:23101309\) *J Investig Allergol Clin Immunol.* 2012;22\(5\):345-50.](#)
[\(PMID:23548535\) *Ann Allergy Asthma Immunol.* 2013 Mar;110\(3\):206-7.](#)
[\(PMID:25935431\) *Ann Allergy Asthma Immunol.* 2015 Jun;114\(6\):535-6.](#)
[\(PMID:21950628\) *Photodermatol Photoimmunol Photomed.* 2011 Oct;27\(5\):245-7.](#)
[\(PMID:19844860\) *Planta Med.* 2010 Jan;76\(1\)7-19.](#)
[\(PMID:28027641\) *J Agric Food Chem.* 2017 Jan 18;65\(2\):309-316.](#)
[\(PMID:27352447\) *J Complement Integr Med.* 2016 Sep 1;13\(3\):257-265.](#)
[\(PMID:28401234\) *Food Funct.* 2017 May 24;8\(5\):1741-1748.](#)
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)
[\(PMID:22352435\) *Rejuvenation Res.* 2012 Feb;15\(1\):89-97.](#)
[\(PMID:21169874\) *Optom Vis Sci.* 2011 Feb;88\(2\):257-62.](#)
[\(PMID:28962463\) *Toxicol Rep.* 2015 Aug 29;2:1209-1212.](#)
(102) *The Pharmacology of Chinese Herbs* 2nd.ed. CRC Press